



野嵩の「ちなひちもうい」とナカミチ

写真①は、野嵩の何の変哲もない道。これはナカミチと呼ばれるもので、かつての集落のメイン道路でした。そのナカミチからはいくつものスージ（小道）が直角に伸び、まさに集落のセンター通りでした。戦前までここでは、旧暦の6月になると稲の収穫に感謝し、次の豊作への祈りを捧げる綱引きが行われていました。

綱引きでは綱をつくって引くだけでなく、その前後に行われる、ガーイー（示



▲①現在の野嵩の「ナカミチ」



▲②ナカミチで披露される「ちなひちもうい」（1991年7月30日）

威行爲）や女性たちの踊りなども、楽しみのひとつでした。集落を二分して対抗心むき出しの白熱したたたかいが繰り広げられ、日常の様々な感情が解放される場ともなりました。野嵩では、綱を引く前の人々の景気づけを担う若い女性たちのその踊りを「ちなひちもうい」とよび、一番上等な着物や、新たに用意した着物を着て、隊列を組み太鼓をもって歌い踊りました。十五歳前後の若い女性たちにとっては結婚前の晴れ舞台となっていました。

写真②は1991（平成三）年に復活した「ちなひちもうい」がナカミチで行われている様子です。現在、あしびな公園とナカミチで踊りが披露されています。かつては若い女性が担っていた踊りを、現在はベテランの女性たちが踊り、さらにあしびな公園では踊りの後に子どもたちによる「ワランチャーヂナ」も行われ、新たな形で現在に引き継がれています。

【問合せ】

市立博物館 ☎ 870-9317



文化財の受難 ～小祿臺～

今年の四月にフランスのノートルダム大聖堂が、火災により大きな被害を受けたことは、記憶に新しいことです。日本でも、二〇一（平成二三）年の東日本大震災、二〇一六（平成二八）年の熊本地震で、多くの文化財が被害を受けました。

天災・人災で壊れた文化財の修復に奔走する人びとがいる一方で、イタズラや窃盗といった悪質な事件が後を絶ちません。二〇一（平成二三）年六月、小祿墓（嘉敷）の約二以下の道路上に、破壊された石彫香炉と石彫獅子が散乱しているのが発見されました。香炉はおよそ

八〇kgもあり、自然に転落したとは考えられません。おそらく盗難か破壊の目的であろうと思われるます。

「火炎宝珠」、もしくは「太陽」と考えられるデザインをはじめ、美しいレリーフで飾られた香炉は、大きく破損しましたが、不幸中の幸いに、復元が可能な状態でした。

文化課では香炉の修復を計画して、昨年実施しました。さらに、将来おこりうる摩耗・隠滅、および損壊事故への対策として、詳細な三次元データの測定・記録、複製の作成も実施しました。

完成した複製は、文化財の保護を訴えるミニ展示会（四月一八日～五月一九日・市立博物館）で、さっそくお披露目されました。今後も歴史学習や展示などで、活躍する予定です。

市の文化財は、市民全員にとっての財産です。これを後世につなげてゆくために、文化財愛護へのご理解とご協力をお願いいたします。

【問合せ】

文化課 ☎ 893-4430



▲2011（平成23）年 香炉損壊事件



▲2015（平成27）年 落書き事件を捜査中の警察官



▲2019（平成31）年4月 ミニ展示会【市立博物館】